

新会長に早川氏

スペーシャリストの会

空間情報総括監理技術者の資格



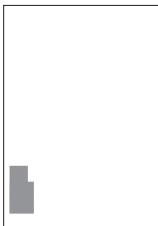
認定者でつくるスペーシャリストの会（瀬戸島政博会長）は、東京都文京区の日本測量協会で2023年度総会を開き、23年度の事業計画と予算などを承認した。役員改選では新会長に早川和夫氏（テイクコ）を選任したほか、副会長には岡本芳樹氏（パスコ）、鶴飼尚弘氏（快適空間F.C）、白井直樹氏（朝日航洋）の3人を新任した。

議事では瀬戸島会長が新執行体制について、「地域での活動を経験してきている人が中心になって担ってもらおう。地域の目線を入れながら全国区で活躍してもらいた

い」と語った。議事終了後にあいさつした早川新会長は「今までの方向性を継承しながら、さらなる発展に向けて、支部活動の活性化と会の知名度向上、空間情報技術のスキルアップに取り組んでいきたい」と決意を示し、さらなる団結と協力を求めた。写真。

事業計画では、新たに本・支部横断型の最新技術動向の調査活動研究会と測量・地理空間情報技術のための人材育成懇談会を設置することを盛り込んだ。参加者は総会後に公募する。測量系以外の学協会との連携・協働にも取り組む。

(11・9)



スペーシャリストの会が全国大会

空間情報の将来展望

空間情報の専門家をつくる
スペーシャリストの会（早川
和夫会長）は9日、東京都文
京区の日本測量協会で202
3年度空間情報未来会議（ス
ペーシャリストの会全国大
会）を開いた。写真。対面で

の東京会場とウェブ配信した
全国9会場を合わせて約21
0人が参加し、空間情報技術
の最新動向を共有するととも
に、将来の展望を採った。同
協会が共催した。同会は空間情報総括監理技



術者の資格認定者による専門
家の会として05年11月に発
足。23年度での有資格者数4
39人のうち、10月1日現在
で376人が会員となっている。
設立から18年にわたって会

をリードしてきた瀬戸島政博
前会長（日本測量協会）は冒
頭で趣旨説明に立ち、測量系
で最高位の資格者集団として
「発表では単に現状の報告と
問題点や課題を提示するだけ
でなく、われわれの技術とそ
の将来を展望し、明日を占う
ところまで言及してほしいと
プレゼンターには要請した。
それに基づいてわれわれはど
う行動すべきか、ぜひ聞き耳
を立てて発表を聞いてほし
い」と呼び掛けた。

この後、金沢工大の前副学
長で国際高等専門学校校長の
鹿田正昭氏が「金沢工業大学
における教育・研究の振り返
りと国際高専での挑戦」、中
部大理工学部AIロボティク
ス学科の藤吉弘巨教授が「B
eyond X AI…人と共に
進化するAI」と題してそれ
ぞれ特別講演した。

「私たちの技術とその展望」
をテーマとしたスペーシャリ

ストの会発表では、5人の会
員が「地図表現の変遷と今後」
「空間情報とデータ駆動型社
会の関係」「ALBの今後の
展開」「文化財（建造物）へ
の空間情報技術のこれから」
「デジタルツイン構築に向け
た3次元地理空間情報の役割
と今後の展望」について、そ
れぞれ提起した。

